



ニューヨーク

ラットランド市  
【位置】

ニューヨーク市から北へ約380キロ  
【人口】 約15,000人  
【面積】 約20平方キロ  
(石鳥谷町新堀地区とほぼ同じ広さです)  
【日本との時差】 14時間  
(夏時間の場合は13時間)

■**大理石の都市**  
ラットランド市は、「マーブルシティ(大理石の都市)」とも呼ばれ、かつては大理石の名産地として知られていました。特に中心街の歴史地区は、大理石の採石と加工の歴史のあるまちで、100以上の建造物がアメリカ合衆国国家

■**自然と歴史が息づくまち**  
ラットランド市は二つの山脈に囲まれた広い盆地に位置し、山や湖などの自然に恵まれています。そのため、スキーやハイキング、遊泳、紅葉鑑賞などのレジャーをメインとした観光業が盛んです。

ラットランド市って  
どんなところ？



# ラットランド市・花巻市 姉妹都市提携40周年



アメリカ合衆国バーモント州ラットランド市と旧石鳥谷町が、国際姉妹都市提携を結んでから40年。これまでの交流の歩みや、本年度予定している交流事業、両市民からのメッセージなどを紹介します。

■**これまでの交流の歴史**

■**生徒たちが相互に両市を訪問**  
昭和63(1988)年に始まった中学生の相互派遣交流は、現在も「青少年海外派遣研修事業」として継続され、両市の生徒たちの交流が盛んに行われています。平成18(2006)年度の提携20周年には、花巻市の訪問団7人がラットランド市を訪れ、姉妹都市提携20

歴史登録財として、保全されています。  
なお、石鳥谷総合支所旧議場の一部や、道の駅石鳥谷にある石碑にも、ラットランド市の大理石が使われています。



▲交流を記念した大理石の加工品

周年式典に出席しました。  
30周年となる平成28(2016)年度には市民ツアーを実施し、花巻市から総勢32人がラットランド市で開催された姉妹都市提携30周年式典に参加しました。この時に記念品として花巻市に贈られた大理石製のベンチは、石鳥谷中学校に設置されました。また、同様のベンチがラットランドハイスクールのにも設置されています。

■**コロナ禍にも負けず交流は続く**  
本市とラットランド市の交流はその後も続きましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2〜4年度にかけて、訪問による交流は中断。提携35周年を迎



▲ハロウィンカボチャ彫刻体験の様子



■**交流の始まり**

ラットランド市との交流のきっかけは昭和60(1985)年にさかのぼります。  
当時の石鳥谷町長の関鋼次郎氏は、町の事業を通じて交流のあった米国アーラム大学を訪問中、同大学のジャクソン・ベイリー教授からバーモンド州への訪問を勧められました。また、教授の教え子がラットランド市長ジョン・デイリー氏と親交があったことなど偶然が重なり、デイリー市長と出会い、懇談の機会が設けられました。懇談の席で、お互いのまちの風土や気候、産業面などから両氏は意気投合。姉妹都市交流の話が持ち上がり、デイリー市長から関町長に信頼と友好の証として「ラットランド市の鍵」が関町長に贈られました。  
帰国後、関町長はラットランド市との姉妹都市交流の実現に向け、国内外の関係者と調整を進めました。その努力が実り、翌年の昭和61(1986)年10月8日に、姉妹都市提携が結ばれました。



▲ラットランド市の鍵

えた令和3(2021)年度に開催を予定していた記念式典も延期となりました。  
しかし、交流が途絶えることなく、両市は35周年を記念した記念品を贈り合い、令和5(2023)年度から青少年海外派遣研修事業をはじめとした直接交流を再開しました。令和6(2024)年度にはラットランド市から訪問団13人をお迎えし、延期されていた35周年の記念式典を花巻市で開催。これまでの交流を振り返るとともに、友情を確かめ合い、友好への思いを新たにしました。  
令和7(2025)年度にも両市の生徒同士の派遣・受け入れの交流が行われ、本年度姉妹都市提携は40年目を迎えます。



▲石鳥谷中学校での習字体験の様子